

- ・学習塾の授業は基本的に「導入→展開→まとめ」の構成となっています。学習塾講師は、授業の流れに応じた適切な行動を取る必要があります。
- ・学習塾講師が授業をする際には、「塾生に学習を動機付け」「塾生に授業に集中させる」とともに、「塾生に学習内容を理解させる」ための行動を取る必要があります。それぞれ必要となる行動は異なり、必要となるタイミングも異なります。



以下に記載しております内容は、学習塾講師検定 集団指導1級受検者の皆様を対象とした評価項目です。
 また、参考として、ハイパーフォーマー講師などの行動事例を挙げています。これらを参考に、あなたなりの工夫をして表現してみてください。

集団指導 1 級試験評価チェックシート（参考付き）

満点 150 点

1. 導入 32 点

評価項目	採点方法	(参考) ハイパフォーマーの行動事例	問 題	や や 問 題	基 本 水 準	十 分 充 足
A 学習を動機づけるための行動						
1. 授業の位置づけの明確化						
・本日の授業内容は何をやるのかを説明している ・本日の授業内容と他の内容との関わりを説明している	有無法	・授業の単元が既習事項の延長線上にあることを生徒に認識させるため、復習も兼ねて、必ず前回授業の要点を復習し、本日の授業との関わりを説明している。 ・本日の単元を理解することが、他の単元にどのような影響を与えるかを事前に説明することで、単元への興味を喚起している。	0	-	4	-
2. 授業内容に興味を持たせる工夫（導入時）						
・本日の授業内容について、生徒の興味を持たせる工夫をしている	有無法	・はじめに、生徒にとって身近な事象や出来事などを拾い上げて、その単元との関わりを示して、興味を持ってもらうように工夫している。 ・「この単元は〇〇校の入試でよく出るよ」など、その単元について、目標となる入試での重要性を説明している。	0	-	4	5
B 学習内容を理解させるための行動						
1. 導入時の説明・発問のタイミング						
・最初の説明が、円滑な授業の展開を導くために適切なタイミングである	有無法	・講師の側から答えや例を出すだけでなく、なるべく生徒に発言してもらっている。導入時に特にそれを意識することによって、生徒の参加意識を促している。 ・特に最初の発問は特に、生徒の理解度を確認し、授業の難易度のレベルを調整するようにしている。	0	-	3	4
2. 導入時の説明・発問の内容						
・最初の説明は、適切な題材を用いて、わかりやすい説明ができています	有無法	・説明をする際に身近な事例を子どもから拾い上げて説明している。例えば、数学で立体を説明するときは、予め画用紙などで小道具を作成しておくことにしている。 ・最初の説明や発問は原則を重んじたシンプルなものにしている。例外をごちゃごちゃと説明すると、生徒が混乱する。 ・「これからやることは、決して難しくない」ということを感じてもらうために、単元の内容を「要はこういうことなんだよ」とかみ砕いて説明し、リラックスさせて授業を始めている。	0	-	3	4
C 授業に集中（参加）させるための行動						
・惹きつけられるような話のリズム・強弱・緩急である ・一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである	減点法	・元気がない小さな声か最も良くないが、大きすぎる声も状況によっては問題である。最低限、一番後ろの生徒にも聞こえるような声の大きさは必要である。聞き取りやすく話しているかどうかは、生徒の表情をみて確認する努力をしている。 ・「えー、あー、うー」といった余計な言葉を使わない。言葉を咬まないようにしている。 授業前に「滑舌」をして、生徒に聞きやすい発音を心がけている。	0	3	6	9
2. 導入時の態度						
・表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、情報伝達を促している	減点法	・立ち位置を正面中央にして、半歩前が出るつもりで話し始める。 ・導入時に、すぐ黒板に向かうのではなく、生徒を引き込むような元気な姿勢を見せている。 ・使用するテキストを高く掲げて、何を準備すべきか生徒に分かるようにしている。 ・いつまでもおしゃべりしたりして集中しない生徒には、はじめに目線で注意し、それでもだめなら言葉で注意するようにしている。	0	2	4	6

II. 展開（演習）

61 点

評価項目	採点方法	(参考) ハイパーフォーマーの行動事例	問 題	や や 問 題	基 本 水 準	十 分 充 足
A 学習をモチベーションのための行動						
1. 授業内容に興味を持たせるための工夫（展開時）						
・本日の授業内容について、必要に応じて、生徒の興味を持たせる工夫をしている	有無法	・身近な話題を結びつけることでストーリー仕立ての説明をし、生徒の理解を促し、記憶に残るように話している。 ・解かせ終えた問題について、「実は〇〇校の入試に出た問題だ」と、敢えて後で説明を加えることによって、インパクトを与えたとともに、入試問題が解けたという生徒の自信にも繋げる工夫をしている。	0	-	3	5
2. 授業中の激励など						
・生徒の反応を想定した激励がなされている	加算法	・生徒がわかった瞬間、問題を解いた瞬間に、個別に激励することを心掛けている。生徒に自信を持たせ、やる気を喚起させるようにしている。 ・生徒が疲れているようなときは、1問ずつ「問題演習→解説」を繰り返すことでリズムをつけるような工夫をしている。集中力が切れやすい生徒には積極的に質問・激励をしている。 ・激励の言葉ややる気を喚起させる言葉は、生徒一律ではいけないし、繰り返しでもいけない。状況に応じて言葉を発し、生徒のやる気を喚起したか確認することが必要である。	0	-	4	6
B 学習内容を理解させるための行動						
1. 適切な説明・発問・例示						
・例示の説明（発問を含む）の回数・タイミングが適切である ・生徒の理解の定着を図るために工夫された説明（発問）がある	有無法	・暗記事項では声に出して覚えさせるなど、生徒に飽きさせず、理解を促す工夫をしている。また、暗記法を教えるようにもしている。例えば親鸞の「鸞」は何度書いても覚え難いが「糸系言う鳥」と教えてあげることで覚えられるようになる。 ・生徒の集中力がきてきているときには、問題を1問ずつ解かせるなど、発問を工夫することでリズム感を持たせている ・生徒が自分の力で考えられるような例題を出したり、前の例題で用いた解法を次の例題でも活用できることを示すなど、例題の組み立て方を工夫している。 ・時間を区切って問題を解かせることで、生徒に緊張感を持たせている	0	-	3	4
2. 生徒の理解確認						
・生徒の理解度を確認するための行動（発問や配慮）を実施している ・対象者の表情や姿勢、応答などから理解度を解釈し、確認している	有無法	・選択問題であっても、単に答え合わせをするだけでなく、不正解の選択肢がなぜ間違っているのかを生徒に答えさせることで、理解を確認している。 ・問題の内容、難易度によって、チェックすべき生徒を選んでいる。難しすぎるようであれば再度説明をしている。 ・生徒が黒板を写している間に、教室を回ってノートに誤字脱字がないかをチェックしている。	0	-	4	-
3. 説明、発問・確認・対応の流れ						
・説明（発問を含む）・確認・対応の流れが理解を促すために適切である ・特に授業の要点などが明確にわかるように説明している	有無法	・基本的には、その授業の中ですべてのコンテンツを完結させる。自宅で復習はしなくともよいレベルまで、授業のなかで理解させることを目指している。 ・発問から確認、対応の流れは、問題の難易度に応じて変化させている。説明・発問→確認→対応の流れは、一つの授業で何度も繰り返されるが、一連の流れが明確になるように、切替を重視している。	0	-	3	6
4. 生徒の応答に対する対応						
・生徒の応答を想定した配慮がなされている ・確認したことを活かした説明ができています	加算法	・レベルの高い生徒には発展的な問題にも取り組ませるなど、生徒のレベルの違いに配慮している。解答できなさそうな生徒には、ヒントなどを出して自分で答えさせるような工夫も必要である。 ・正答できなかった生徒に対するフォローを忘れないようにしている。間違っただけで解答をした生徒をそのままにしておく、その生徒はその後出席しづらくなったり、その後答えなくなったりする。 ・生徒が理解しているかどうかを確認し、理解していないと感じた場合は、説明方法を変えたりするなどして、理解の定着を促すようにしている。	0	-	3	6

C 授業に集中（参加）させるための行動						
1. 展開時の話し声						
<ul style="list-style-type: none"> ・聞いていて苦にならない話のリズム・緩急である ・一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである ・要点の説明などが明確にわかるよう、話の強弱とスピードをコントロールしている 	減点法	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がない小さな声が良くない。最低限、一番後ろの生徒にも聞こえるような声の大きさは必要である。聞こえているかどうかは、生徒の表情をみて確認している。 ・ゆっくりと話した直後に急展開したり、敢えて急に小さな声で興味を惹きつけたりしている。生徒にはずっと緊張させても良くないし、ずっとリラックスさせても良くない。 ・集中させたい箇所や重要な箇所では、声の強弱やトーンを変えたり、間を取ったりするなど、注意を向けさせる工夫をする ・生徒たちが理解しているかをきちんと把握しながら、話の間やテンポを変えていく。生徒が真剣に聞き入っている状況が明らかなのであれば早口の方が集中してくることにつながる。逆に理解度が低そうだと思うのであれば、同じ内容をゆっくり話したりする工夫をしている。 	0	2	4	8
2. 展開時の態度						
<ul style="list-style-type: none"> ・表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、情報伝達を促している 	減点法	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人（全員）と目が合うように意識しており、どうしても目が合わない生徒に話しかけたりしている。 ・生徒の集中力が切れるのを避けるため、時には教室内を歩き回りながら説明している。 ・生徒と正対していることが基本であるが、時には注意を引くために敢えて生徒の後ろで説明をしたりしている。 	0	2	4	8
3. 板書による説明						
<ul style="list-style-type: none"> ・文字が生徒からよく見えて、目的に応じた板書の活用に配慮している ・極端に長文の板書、極端に長時間生徒に背を向けた板書をしていない 	減点法	<ul style="list-style-type: none"> ・右端の生徒、左端の生徒、後方の生徒、全ての生徒が黒板の内容を読めるのかどうかを、書いている最中も、書き終えたときも意識している。 ・ノートをとってもらうためにきれいにまとめる板書と、単元の概要を理解してもらうために大まかに書く板書など、目的に応じた板書の使い方をしている。また、「ここはノートに取ること」「ノートには取らないで、こっちをみること」と明確な指示を出している。 ・ノートにとってもらうためにまとめる板書は、そのまま写せばノートになるような板書にしている。 ・生徒に要点を理解してもらうために、重要な箇所で色を変えたり、大きく書くなどの工夫をしている。 ・板書をしている間にも、生徒のほうに注意を向けるよう配慮している。例えば、生徒の話し声がした場合はふりかえったり、板書しながらも声を出すなど、状況と目的に応じた対応をとっている。 	0	2	4	6
4. 講師の意欲・情熱						
<ul style="list-style-type: none"> ・講師の意欲や情熱・使命感が、生徒に伝わっていると思われる 	減点法	<ul style="list-style-type: none"> ・多少演技染みだふるまいであっても、説明をするときには、身振り手振りを加え、メリハリをつけることで生徒に情熱を伝えるような努力をしている。 ・講師が一人で演じ、生徒がボカンと眺めている授業が最も良くない。意欲や情熱は表現する努力をしても、常にそれが生徒に伝わっているかどうか、生徒の目が常に自分を集中して見ているかどうかを確認している。 ・講師は常に生徒に見られていることを意識し、規範を示すことが必要である。講師の言うことはぶれないという意識を生徒に持たせて、信頼を得るよう努力している。 	0	2	4	8

Ⅲ. まとめ

30 点

評価項目	採点方法	(参考) ハイパフォーマーの行動事例	問 題	や や 問 題	基 本 水 準	十 分 充 足
A 学習を動機づけるための行動						
1. 授業の位置づけの再確認						
・ 本日の授業内容は何をしたのかを説明している ・ 本日の授業内容と他の内容との関わりを説明している	有無法	・ 授業の単元が既習事項の延長線上にあることを生徒に再認識させるため、復習も兼ねて前回授業との関わりを説明している。 ・ 授業がどうしても次回に続きそうな場合は、面白くなりそうなところであえて終わりにし、次回への繋がりを重視し、興味を持続させるような工夫をするときもある。	0	-	3	-
2. 授業内容に興味を持たせる工夫（まとめ時）						
・ 本日の授業内容について、生徒の復習や次の予習を促す工夫をしている	有無法	・ これだけは覚えて帰ってほしい、という本日のポイントを示し、なぜそれがポイントなのかも併せて説明している。例えば、「今後の理解の上で大事だ」「テストに出る可能性が高い」等、説明の方法は様々ある。 ・ 家に帰ってからも続けて学習しようとする意欲を高めるために、授業でやった内容と宿題をリンクさせるようにしている。	0	-	3	4
B 学習内容を理解させるための行動						
1. 生徒の理解確認						
・ 生徒の理解度をなんらかの方法で最終確認している	有無法	・ 確認テストなどをして、生徒の理解度をチェックするようにしている。 ・ 宿題を忘れずにメモしているか確認している。 ・ 重要事項は、声に出させて確認させている。	0	-	3	-
2. 要点の明示						
・ 授業の要点などが明確にわかるように再度説明している	有無法	・ 当該単元における必修事項は、授業の最後に必ず確認している。	0	-	3	4
C 授業に集中（参加）させるための行動						
1. まとめ時の話し声						
・ 最後まで惹きつけられるような話のリズム・強弱・緩急である ・ 一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである	減点法	・ 授業の終盤では、授業の中盤と比べて「ゆっくり」「大きめの声で」ポイントを言うことにしている。 ・ 一つ一つのポイント毎に、多少の間を置き、メリハリの効いた話し方を心がけている。	0	2	4	8
2. まとめ時の態度						
・ 表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、気持ちの良いまとめを促している	減点法	・ まとめ時も、アイコンタクトで生徒一人一人と目が合うように意識しており、どうしても目が合わない生徒には話しかけたりしている。 ・ 自分がそわそわしたり、終わりの支度をしながら話したりしないで、最後まで生徒に集中するよう注意している。 ・ 「きょうは、どうしてもこれを教えたい」という姿勢を見せる工夫をしてい	0	2	4	8

評価項目	採点方法	(参考) ハイパフォーマーの行動事例	問 題	や や 問 題	基 本 水 準	十 分 充 足
1. 総合（授業全体の構成）		<導入> ・「起立・礼・着席」の号令を行うことでメリハリをつけている。 ・授業で不必要な鞆や道具は、机の下に置かせてから授業を始めている。 ・遅れてきた生徒がいる場合は、指示（テキストの該当箇所など）をした上で、すぐに座らせている。 ・授業開始前の生徒の表情・会話に気を配っておき、学校での話題などからはじめることで授業をスムーズにスタートさせている。 ・「では、ノートを開いて」「ではプリントを表にして」というように、号令で生徒の行動が一斉に揃うようにしている。 <展開> ・すべての生徒の挙動を観察するよう努力し、生徒には「自分は見られている」という感覚を持たせるようにしている。 ・常に黒板の前に立っているのではなく、教室の中心まで移動して、後ろの生徒に質問するような工夫もしている。横の動きだけだと特定の生徒にとって死角になる場合がある。 ・発問をする際には、敢えて最も後方の生徒にあてたり、講師が一番後ろに行くと、最も前方の生徒にあてたり、隅にいるときは教室の対角線上にいる生徒にあてるようにしている。教室にいる生徒全体を間にしやりとりがなされるため、皆が聞き取りやすく、参加意識を促せる。 ・やる気のない生徒や、授業運営に支障をきたすようなふるまいをする生徒には、叱りつけることも時には必要だが、生徒のパーソナリティについて叱ってはいけない。生徒自身を叱るのではなくて、生徒の行動を叱り、しかもそれは公平でなくてはならない。 <まとめ> ・授業で不必要な鞆や道具は、授業が終わるまで出させないし、帰り支度はしないように注意している。 ・次回の変更や注意点は、口頭ではなく、必ず板書にして連絡をしている。 ・生徒に「きょうは来て良かった」と思わせる工夫をするよう心掛けている。 ・「起立・礼・着席」の号令を行うことでメリハリをつけている。 ・生徒全員が退室するまで教室に留まり、質問に回答したり、生徒に声がけをしている	0	3	6	9
2. 総合（生徒からの信頼）			0	3	6	9
3. 総合（教室全体の掌握と効果的な学習指導）	減点法		0	3	6	9
4. 基本的マナー（前提基準：問題有りとなった時点で、審査員の協議により不合格の判断がなされる）						
・不適切な言葉づかいがない ・身だしなみ、態度がよい			注	-	-	-
5. 授業内容（前提基準：問題有りとなった時点で、審査員の協議により不合格の判断がなされる）						
・授業科目の知識をしっかりと有しており、授業内容に誤りがない			注	-	-	-

導入	32	点
展開	61	点
まとめ	30	点
総合	27	点
合計	150	点